

**児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)**

公表:令和2年4月1日

事業所名

やわらキッズ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		子どもの障がい特性や利用人数に応じてスペースを調整している	
	2	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		子どもの障がい特性や利用人数に応じて職員の配置数を調整している	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		バギーが利用しやすいよう段差のない入口にする等、事業所をバリアフリー化している 事業所がビルの2階にあるため、ビル内に福祉用エレベーターを設置している	事業所前の廊下が狭いとの指摘に対しては、バギーを置く位置を改善する
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>		サービス開始前及び終了後に清掃を行い、アルコールや次亜塩素酸による感染予防対策を行っている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		カンファレンスを実施している シフトに全く入っていない職員、月1回勤務及び週1回勤務の職員については、個別的に情報共有を行っている	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		カンファレンスを実施して情報共有している	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		カンファレンスを実施して情報共有している 評価結果をホームページで公表している	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>	事業所内で客観性を持って評価し、業務改善に繋げている	第三者による外部評価を行っていない
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		事業所内研修を実施している	シフトに全く入っていない職員、月1回勤務及び週1回勤務の職員については、外部研修等を活用する
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		直接支援を行う看護師、理学療法士等の専門家と意見交換を行っている	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		重症心身障がい児の障がい特性に応じたアセスメントツールを使用している	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	<input type="radio"/>		重症心身障がい児の障がい特性に応じた支援内容を設定している	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	<input type="radio"/>		直接支援を行う看護師、理学療法士等の専門家が支援計画内容を把握している	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>		看護師、理学療法士等の専門家が児童発達支援管理責任者が作成した支援計画に基づいて、重症心身障がい児に応じた活動プログラムを立案している	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>		生活環境や子どもの体調等に変化があった場合は、活動プログラム内容を変更している	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		医療的ケア、機能訓練、入浴等、障がい特性に応じた個別活動を計画している 医療的ケア、機能訓練、入浴等に時間がとられ、集団での活動は困難である	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>		サービス開始前に職員間で子どもの状況確認を行う時間を設けている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>		サービス終了後に職員間で情報共有を行う時間を設けている	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>		バイタル、医療的ケア、機能訓練、入浴等の記録を作成している	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>		生活環境、子どもの体調の変化があった場合は、支援計画を変更している 最低でも6か月に1回、支援計画の見直しを行っている	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		直接支援を行っている看護師、理学療法士等の専門家が参画している	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		保健所と情報共有し、連携して支援を行っている	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		併設する訪問看護ステーションと併用しているため、保健所等との情報共有を常に行っている	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		併設する訪問看護ステーションと併用しているため、主治医との情報共有を常に行っている	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		特に医療的ケア、機能訓練等について情報共有を行っている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		特に医療的ケア、機能訓練等について情報共有を行っている	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		子どもが併用する他の専門機関と情報共有を行っている	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	送迎時を利用して幼稚園等と情報共有を行っている	保護者から要望があれば検討したい
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○	保健所が開催する会議等へ参加している	マンパワー不足で参加する余裕がない
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時にその日の子どもの様子を保護者に必ず伝えている	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		医療的ケア、機能訓練等について、保護者支援を行い、信頼関係を築いている	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		説明者を中心に運営規程や利用者負担等について熟知するための勉強会を実施している	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		支援計画作成時だけでなく、日頃から保護者に支援内容の説明を行っている	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		日頃から医療的ケア、機能訓練等について、保護者支援を行い、信頼関係を築いている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者主体の活動があれば支援を検討したい
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		満員時でも利用の要望があった際は、他の事業所と連携して、子どもができるだけサービスを利用できるよう努力をしている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		その都度、文書を作成して個別に案内している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		ウィルス対策ソフト、安全な請求システムの導入を行っている FAX送信の際は、個人情報をマスキングしている	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		子どもの状態を看護師、理学療法士等の専門家の視点からわかりやすく伝えている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		行事は開催していないが、地域住民に対してホームページやブログを通じて発信している	
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		シフトに全く入っていない職員、月1回勤務及び週1回勤務の職員については、個別的に情報共有を行っている	
非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		シフトに全く入っていない職員、月1回勤務及び週1回勤務の職員については、個別的に情報共有を行っている	避難経路図等の配布を検討する
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		保護者や主治医等から状況確認を行っている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		併設する訪問看護ステーションと併用しているため、主治医と情報共有を常に行っている	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		カンファレンスを実施している シフトに全く入っていない職員、月1回勤務及び週1回勤務の職員については、個別的に情報共有を行っている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		事業所内研修を実施している シフトに全く入っていない職員、月1回勤務及び週1回勤務の職員については、個別的に情報共有を行っている	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		決定の際は、必ず保護者や保健所等と相談するようにしている	